

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28年 11月 9日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200627		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・八木		
所在地	〒731-0101 広島県広島市安佐南区八木一丁目10番10号 (電話) ① (082) 830-2588 ② (082) 830-2117		
自己評価作成日	①平成28年10月04日 ②平成28年10月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200627-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年11月8日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で入居者それぞれの個性を大切に、運営理念である「安らぎとよるこびのある日々を、その人らしくいつまでも」を基本として、思いやりのある温かいサービスを提供している。また、一人ひとりの意思や能力、人生人格を尊重し、入居者の思いに寄り添い、柔軟に対応できるよう体制を整え、散歩や買物など外出の機会を多く設けている。職員が楽しく働ける職場作りも行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人理念が示され、ユニット毎に職員間で話し合いを行い、目標・計画に基づいて実践されている。地域との繋がりを大切に、買い物や散歩、近隣の保育園との交流や町内行事、祭りの後の清掃などに利用者と一緒に参加している。就労支援（介護を担う人材）体験の場の提供など積極的に取り組まれている。利用者の希望（外食・外出など）があれば、実現できる取り組みをし、利用者の思いに寄り添いながら個別ケアの徹底を図っている。食事は3食手作りとし、利用者的好评である。利用者にとって無理のないサービスを心がけ、事前に体験入居（2泊3日程度）出来、お互いが納得したうえで利用出来る取り組みをしている。職員同士が話しやすい雰囲気であり、働きやすい職場環境づくりに努めている。今後は、運営推進会議をより充実させ、参加者からの意見、要望を生かす取り組みを行い、更なるサービスの質の向上に力を入れていきたいと考えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	事業所独自の理念を掲げ、出勤時に復唱し、それに沿ったケアができるように努めている。今後、その理念について、達成できているかどうか職員間で評価を行い、見直しを行っている。	出勤時に唱和し、自己点検している。また、法人の理念を生かし、職員間で話し合いを行い、理念に沿った年度毎のユニット目標『3Y運動（①優しさ②役割③寄り添い）』をつくりあげている。年2回の評価・見直しを行い、日々実践することにより、全員で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の保育園の運動会見学・慰問や、町内会行事への参加、就労支援を行っている事業所との交流、中学校行事への参加、ボランティアの慰問などがある。地域の方を講師に招いての研修も行っている。また、買い物や散歩時に挨拶等行い、交流が増えてきている。	地域との繋がりを大切にし、買い物や散歩、近隣の保育園との交流や町内行事への参加・清掃などを利用者と一緒にしたり、就労支援（介護を担う人材）体験の場の提供などに積極的に取り組んでいる。地主が、薬剤師であり、講師として招いて職員研修を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症サポーター養成講座を行うなどしている。また、いつでも見学や相談に応じられる体制を整えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議を通して、取り組みなどの報告や話し合いを行い、出席者(利用者や他事業所の方など)の意見などを基に、外出レクに活かしたりサービスの向上・実践につながるよう努めている。また、災害時の対応も話し合い活かしている。報告書を家族などが閲覧できるように玄関に設置し、出席できなかった方には報告書を届けるようにしている。	同地区の他事業所の参加もみられ、現状を報告するなかで、相談・検討を行い、それらの意見をサービス向上に生かしている。家族の参加が少ないことから、年1回の家族会を行い、利用者・家族・職員の交流の場を設けている。	家族参加が少ない状況である。今後の取り組みとして、①参加しやすい開催日時の検討。②議事録を家族へ送付する。③家族が参加できる行事案内や会議の目的を説明するなどの取り組みを望みます。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	できるだけグループホームの状況など伝えられるよう、地域包括支援センター等と連携を取るようになっている。	安佐南区の担当者や地域包括支援センターの職員とは連携を取り、サービスの向上を目指している。地域包括支援センター主催の「いきいきネット」への参加により、同地区の他事業所とのネットワークづくりができています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>職員会議での勉強会や内部・外部研修などで、具体的な行為を含め、身体拘束防止について理解し、職員間で共通意識を持ち、正しい対応に取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束をするケースは今のところ無い状況である。法人全体での社内研修が充実しており、職員が講師となり、研修を通して確認し合い、身体拘束をしないケアを目指して取り組んでいる。利用者に寄り添うことにより、拘束のないケアを日々実践している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>職員会議での勉強会や内部・外部研修に参加し、常に意識して細心の注意・防止に努めている。また、職員のストレス解消にも努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>内部・外部研修にて学ぶ機会がある。必要性について話し合うこともあり、早期に対応ができるように努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>不安などを聴き、十分な説明を行い、理解・納得していただけるようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議の参加を募ったり、来所時や電話にて、定期的に意見などを聴くよう努め、反映させている。また、利用者の意見を聴く機会も設けている。</p>	<p>毎月、担当職員より、事業所での生活状況に関する内容を送付している。年1回の家族会を行い、利用者・家族・職員の交流の場を設けている。本部より家族を対象に、年1回「アンケート」を実施している。寄せられた要望や意見については誠意を持って対応し、信頼関係を築くように心掛けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>申し送りや、職員会議、また普段から時間のある時に職員から話を聞く機会を持ち、運営に反映させている。</p>	<p>職員同士が話しやすい雰囲気である。申し送りやスタッフ会議などで、利用者のケアについて話し合いを行っている。必要に応じて個別面談を実施し、管理者は、職員一人ひとりの力量を把握し、働きやすい職場環境の充実に努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>面談や時間のある時に、職員一人ひとりの意見を聞く機会を設けている。それぞれに役割を持たせ、また、資格取得に向けた支援や、目的意識を持てるよう努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員それぞれが、今必要なことを把握し、内部・外部研修に参加できるように、勤務体制を整えるように努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>他事業所との職員間研修や勉強会などで、交流や意見交換などの機会を作ったり、運営推進会議に参加してもらったり、参加するようにしている。また、地域内の地域密着型の事業所が集まる機会もある。それらにより、サービスの見直しの機会を得るようにしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>面談や事前の体験入居を行うことにより、本人の希望や心配事などを考慮しながら、信頼関係を築けるようにコミュニケーションを図り、関係作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族の希望や不安などについては、いつでも話せる機会を設け、十分な時間を取って、信頼関係を築けるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人と家族の必要としている事柄を、できるだけ見極めて対応している。必要時には、他のサービス利用も検討している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>役割などを持ってもらい、生きがいを感じていただくよう努めている。普段から利用者の方に教えていただくことも多く、感謝の言葉を忘れないようにしている。また、本人の特徴を活かしながら、関係が作れるように心がけている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時や電話にての家族との情報交換、また相談など、できるだけコミュニケーションを図り、関係を築けるように努めている。外出や面会をお願いすることもある。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>ドライブなどで自宅の近くに行ったり、友人との電話の支援など、関係が途切れないよう努めている。</p>	<p>希望に合わせて、電話をしたり、定期的に手紙を出す支援をしている。家族の協力を得て、買い物や外出、年末には外泊して自宅で家族と過ごしている。友人・知人などの訪問も見られ、以前からの関係継続に配慮がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の人間関係に配慮し、孤立しないよう、席の配置や、食事作り・作品作り、外出などのレクレーションを通じて、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	病院のお見舞いや、施設への面会、家族の来所・電話などの関わりがある。また、いつでも相談に応じられる体制をとるようにしている。		
n					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中や様子などから、一人ひとりの変化に気づき、本人の希望や意見にできるだけ沿えるようにしている。困難な方は、家族に相談する等して対応している。	利用者の大半が、自立しており、活動は多い。本人の役割づくりが大切と考え、職員の提案で新聞の天風録の内容を書き写すことを始めて、習慣化できるようになった利用者がある。日々の関わりのなかで、楽しみごとやその人らしく暮らせることに心掛けた支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族に、今までの生活歴など伺い、個人ファイル等に記録を残し確認する等、状況が把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者の方一人ひとりのできることを見極め、できることをしてもらうよう努めている。また、それぞれの状態・状況を常に意識し、記録の確認や把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>普段の業務や毎月の職員会議、また本人の希望、家族との相談、関係者の意見を基に作成を行っている。</p>	<p>“本人のケアプランを作る”方針の下、介護計画を作成及び実施をしている。職員は利用者日々の感謝の言葉を伝えている。日々の状況は、「生活記録」に丁寧に記録され、毎月のカンファレンス時に、職員間で話し合いを行い、計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>利用者毎の個別記録に、気づきや本人の主張などを記入し、職員間で共有している。また、それに基づき、意見交換や、対応、介護計画の見直しをしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>個別に買い物や散歩に行ったり、家族に電話をしたりとその時の状況に応じて対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近隣のグループホームや保育園との交流、ボランティアの協力依頼、また、町内会・民生委員の方等と協働できるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>受診時や往診時、また必要時に相談をしたり、指導を受けられるようにしている。</p>	<p>大半の利用者がグループホームの協力医を主治医としている。24時間相談できる体制と主治医の応診が月2回ある。また、月2回の訪問看護師による一人ひとりの健康チェックがされていた。訪問歯科など、定期的な診療を含め、必要時には適切な医療を受けられるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日頃から、訪問看護師やかかりつけ医の看護師に相談するように努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院前・入院中に相談員や医療関係者、家族などと密に連携を取り、情報交換や相談を行うようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合を想定し、家族に契約時や早い段階から話し合いを行っている。その意見を基に、主治医や看護師、職員と今後の対応について決定するようにしている。</p>	<p>利用時に「重度化した場合の指針」に準じ、家族への説明、話し合いを十分に行っている。看護師を配属していないため、重度化やターミナルケアに向かう事例が出た場合は、主治医と相談しながら、今後の方針を決めている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急時マニュアルがある。対応の仕方を学ぶ機会を内部・外部研修などで設けている。また、普段より事故の想定をするなど実践力につながる指導を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回以上、主に夜間想定避難訓練を実施し、そのうち1回は消防署より指導を受け、地域の方にも参加してもらうようになっている。また、地域との協力体制も整えている。全職員が避難の方法を身につけられるよう、毎月、避難訓練を行っている。</p>	<p>近年の土石災害を受け、災害マニュアルを作成し、職員に周知している。地域の方の協力を頂き、訓練の実施や毎月、避難訓練を行い、防災意識を高める取り組みをしている。また、同グループ（6事業所）からの応援・協力体制づくりが構築されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳を保ち、プライバシーに配慮した声かけや言葉遣い、対応などを心がけて行っている。	社内研修では、職員が講師となり、内部研修の充実、職員のスキルアップの向上を図っている。何か疑問などあれば、月1回の職員会議や毎日の申し送りなどで、普段から話し合う環境にある。利用者の各居室は、鍵が掛けられるようになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりの状態や能力に応じ、できるだけ自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	できる限り本人の希望に応じて、一人ひとりのペースで過ごせるよう、買い物や散歩・ドライブなど支援を行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	散髪や髪染め、服選びを本人の希望に合わせて行っている。また、化粧をされる方の支援も行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立を利用者と一緒に考えることもあり、買い物や調理、盛り付け、片付けなどを一緒に行っている。季節行事や誕生日会では、工夫を凝らした料理を出すようにしている。また、外食や出前の機会もある。	3食手作りで提供され、利用者からは好評である。誕生日には、本人の希望を聞いてメニューに反映している（外食もある。）。献立は、冷蔵庫の食材を考慮して、利用者と一緒に決めている。職員も利用者と一緒テーブルを囲み、和やかな食卓になるよう工夫している。また、時には利用者の希望で出前もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養を考え、しっかり摂取できるよう献立を決めている。また、適宜に水分が摂れるよう、小まめに提供する等支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアの声かけ・介助を行い、入れ歯の洗浄も実施している。また、必要に応じて訪問歯科にて、口腔ケアや指導も受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>本人の状態や状況に応じて排泄パターンを把握し、トイレの声かけ、誘導、交換を定期的に行っている。</p>	<p>トイレは、1ユニット（定員9名）に3箇所あり、必要時は居室内にポータブルトイレを設置している。排泄習慣を把握し、トイレ誘導を行い、トイレに座ることを基本としたケアに取り組んでいる。利用者の状況に応じ、トイレ内に手すりを増設するなど工夫されている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘予防のため、水分や乳製品、繊維質の摂取を献立に取り入れ、運動や腹部マッサージも実施している。便秘気味の方は服薬などで調整している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>一番に入浴したいなど、利用者の希望を聞き、可能な限り対応できるようにしている。</p>	<p>週3回の入浴を行い、清潔保持に努めている。今までの生活習慣の事もあり、なるべく夜間に近づけ、夕方（14：30～16：00）入浴を実施し、安眠への繋がりを意識した入浴支援をしている。皮膚のトラブルがあれば、必要時には皮膚科の受診をする場合がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>寝具を清潔にしたり、居室の環境整備、室温管理を行っている。また、日中の活動量を増やすなどの工夫をしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬ファイルがあり、普段から確認を行い、変更があった場合などにも確認を行っている。状態も常に把握し、不明な点などあれば、主治医や薬剤師に相談、また指導を受けるようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>食事作りや花の世話、掃除や作品作りなどそれぞれの得意分野を見つけ、役割を持って行えるよう支援している。個別ケアを中心に、レクリエーションや外出などで気分転換も図っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>できるだけ本人の希望に応じ、買物や散歩、ドライブ等と出かけるようにしている。また、利用者の状況に合わせて、家族との協力の下に出かけている。</p>	<p>地域のイベントがあれば、参加している。年間計画により、季節毎の外出企画（花見・紅葉狩りなど）により、楽しみを増やす取り組みをしている。この度、職員の提案で、観劇を見に行き、好評であった。利用者や職員がやりたいことがあれば実現できるようにしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>欲しいものや必要な物などを、希望時や買物時などに買えるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望に合わせて電話をしたり、また定期的に手紙を出すなどの支援を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>温度調整や清掃など細かく行っている。また、季節感のある飾り付けや、展示物などを利用者と一緒に工夫して、居心地の良い空間を作っている。</p>	<p>季節毎の飾りものを一緒に作り、壁面などに飾っている。利用者個々の能力に応じて、洗濯物を畳んだり、干したり、玄関や下駄箱など、一緒に掃除などを行い、事業所内はとても清潔である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>自室にて一人の時間を過ごされたり、気のあった利用者同士が穏やかに過ごせるよう、テーブル・席の配置の工夫をしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>今までの環境とあまり変わらないよう、慣れ親しんだ家具など持参してもらっている。また、本人好みの飾り付けや置物などで工夫されており、居心地のいい自室になっている。</p>	<p>ベッド、エアコン、照明、カーテンは事業所で準備している。それ以外は、「利用時にご用意していただくもの」を参照し、自由に持ち込み可能である。本部手作りの家具（ベッド、手すり、椅子、棚など）を身体状況に応じて配置するなど、本人や家族と相談しながら居心地良く生活できるよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>椅子など利用者の状態に合わせており、手すりもつけ安全に配慮している。また、各居室に表札をつけたり、トイレなどの表示をし、対応している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ひなたぼっこ八木①

作成日 平成28年12月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議への家族の参加が少ない。	できるだけ家族にも参加していただけるようにする。	家族が参加しやすい日時の設定や、会議の目的を説明していく。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ひなたぼっこ・八木②

作成日 平成28年12月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議が少ない状況である。家族の出席の機会を設ける	運営推進会議へ家族の参加しやすい環境を整える	①参加しやすい開催日時の検討②議事録を家族へ送付する③家族へ会議の目的の説明する	1年間
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。